

平成 28 年 11 月発行

第 19 号

発行
住所

有田川町議会

郵便番号 643-0021

和歌山県有田郡有田川町

大字下段 73018 番地 4

電話 0787-52-2111

FAX 0787-52-2188

<http://www.yutakawa.jp/yutakawakobun/>

有田川町議会広報

かわら版



平成22年度補正予算等	2~7
町長にもの申す	8~13
委員会レポート	14~16
議会傍聴記	17

第3回有田川町観光写真コンテスト
 佳作作品『獅子天に舞う』
 提供：有田川町観光協会 撮影者：高橋孝夫氏

しみず農林産物振興センターなど施設建て替え

設計委託料に **1,820万円**

一般会計補正額

1億 8,665万円

平成22年 第3回定例会は、9月8日から22日までの日程で開催されました。

本定例会には、平成22年度一般会計補正予算・特別会計補正予算、条例の一部改正、公

の施設における指定管理者の指定について、名誉町民の称号を贈ることについての議案を審議し、すべて原案のとおり可決されました。

◎平成22年度一般会計補正予算等

(単位：万円)

項 目	補 正 額	補正後の額	説 明
議 会 費	△8	1億 363	職員手当てなど
総 務 費	441	17億 3,783	公用車買換え、電子計算機など
民 生 費	3,014	35億 6,098	障害者福祉費、職員給与費など
衛 生 費	2,568	12億 8,100	太陽光発電設置補助金など
農 林 水 産 業 費	5,988	17億 8,805	公の施設建て替え設計料など
商 工 費	1,311	1億 4,537	道の駅トイレ改修費など
土 木 費	147	9億 3,492	土地購入費など
消 防 費	237	6億 9,918	消防施設整備事業費補助金など
教 育 費	2,133	17億 3,402	文化財(あさぎ鳥)保護調査費など
災 害 復 旧 費	300	1億 2,237	林道災害復旧費
予 備 費	2,531	4,660	不測の事態に備えて



あさぎり (清水地区)

平成22年度
一般会計補正予算

あさぎり・しみず温泉や周辺施設の改築の測量設計に1,820万円予算化されている。今後、どのように整備、改修される計画なのか。

産業課長 平成23年に農林物産振興センター改築、平成24年に高齢者生活活動センターとあさぎり(農林漁業体験実習館)の改築。町道も布設替える。事業費は5億5千万円で国費50%の事業である。

【町長】 工事期間中、施設で働いている方の雇用はどうなるのか。

産業課長 従来どおり働くのは難しいが、できるだけ考慮したい。

【町長】 経営診断の予算もつけているが、施設を利用してもらう方策が大事。経営診断の中でどのように考えていくのか。

産業課長 交流人口の増加と経済的な影響を出すことを目的としている。今後、ふるさと開発公社の運営の参考にしていく。

指定管理者の指定

○農林水産物直売食材供給施設

○林業活性化センター

○生産物販売施設

○ふるさと開発公社関連施設

○農林産物加工直売施設

○木材利用促進加工施設

【町長】 町の繰り入れに頼

◎特別会計補正予算

(単位：万円)

項目	補正額	補正後の額	説明
国民健康保険事業	2,665	37億 237	退職被保険者高額療養費など
後期高齢者医療	78	6億 8,709	職員手当など
介護保険事業	4,580	24億 908	償還金など
簡易水道事業	2,930	7億 6,320	施設整備事業費など
農業集落排水事業	442	3億 2,159	田殿浄化センター工事など
公共下水道事業	123	12億 8,179	職員給料など

らず、赤字を減らしている経営方針でやっていただきたい。

【町長】 施設の統廃合を考えた方がいいのか。

清水行政課長 指定管理者の管理業務審査委員会で提言をいただき、ふれあいの丘施設の営業期間の短縮など行っている。

【町長】 温泉施設の運営が苦しいと聞く。温泉協会のような専門家に意見を聞くなどの場をもっているのか。

町長 団体や成功をおさめているところの指導をいただき、赤字を出さないよう努力したい。

【町長】 現在の木材利用促進加工施設の運営状況はどうか。

産業課長 収支はほぼ拮抗している。運営については厳しい状況である。
【町長】 施設を十分に稼働



木材加工施設

できていないことをどう思うか。稼働すれば利益が上がる施設なのでもっと力を入れていただきたい。

町長 木材加工施設関係者と相談してできるだけ黒字を多く生む施設にしたい。

【町長】 今後、金屋庁舎や吉備中学校など建設されるが、地元木材を使う準備態勢はどうか。

町長 金屋庁舎の木材はまだ発注していない。ある程度木材を用意してもらえよう指導したい。
総務課長 金屋庁舎は鉄骨

構造で、木材は主に内部の装饰材料として使用する。

【町長】 いくつもの指定管理されている施設がある。経営不振になり最悪の場合、施設や設備が債権者に差し押さえられて公共の貴重な財産を失う場合も考えられる。充分注意してやっていただきたい。

町長 管理業務審査委員会があるので常に見守っていききたい。

【町長】 しみず園の運営はどのようなになるのか。充分配慮されたい。

町長 今のところ指定管理の中で公募の方向で調整している。



しみず園

条例の一部改正

◎国民健康保険条例の一部改正

◎廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

◎消防団員等公務災害補償条例の一部改正

◎火災予防条例の一部改正

その他の議案など

◎一般会計補正予算専決処分承認

◎町道の廃止及び認定

・上中島側道線(上中島)
・神楽野1号線
(小島、野田)

◎町道の認定

・谷池線(水尻)

◎財産の取得

・小型消防ポンプ6台

過疎地域自律促進計画の策定

本計画は平成22年4月1日から平成28年3月31

日までの6カ年となっている。

計画の中で産業振興策では基盤整備で9事業、観光・レクリエーションで3事業、過疎地域自律促進特別事業で11事業となっている。

交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流では、町道の整備等で41事業、橋等の整備等で6事業、農道整備で11事業、情報通信事業で7事業、生活環境整備で下水道、簡易水道事業で15事業、下水道事業等で6事業、消防施設事業で10事業、

となっている。高齢者の保健、福祉の向上、増進事業では、児童福祉施設関係で2事業、保健センター改修事業、過疎地域自律促進特別事業で8事業。

教育の振興策では、学校教育関係で14事業、集会施設等では12事業、過

疎地域自律促進特別事業で6事業となっている。今後、計画の具体化とどの財源を使うかなど決めて進めていくことになる。

名誉町民の称号を贈る

東京大学院医学系研究科教授
谷口 維紹 氏

紹介

有田川町三瀬川出身。

1979年研修において世界で初めてインターフェロン遺伝子大腸菌組み替えに成功。またインターロイキンを世界で初めて分離、遺伝子情報の解説にも成功している。細胞増殖のアクセルとブレーキの働きをする物質の研究から遺伝子発現のメカニズムまでを解明、世界的に競争が激しい分野だけに一步先を行ったセンスと粘りが国際的に高く評価されており、平成21年11月文化功労者に

選ばれた。

平成21年度一般会計及び各特別会計の決算認定

平成21年度一般会計及び各特別会計の決算の認定についての議案が提出され、この審査のため決算審査特別委員会が設置

決算審査特別委員会

- 委員長 西 弘義
- 副委員長 新家 弘
- 委員 東 武史
- 坂上 東洋士
- 楠部 重計
- 中山 進

◎平成21年度水道事業会計の決算(認定)

※その他の決算については、閉会中の継続審査とすることに決定。

意見書の提出

【要請】(発議)

「和歌山県消防広域化推進計画」の推進について、県知事宛に要請しました。

◎財政健全化判断比率等について

	有田川町の比率	早期健全化基準	財政再生基準	用語解説
実質赤字比率	—	13.30	20.00	一般会計における実質赤字の財政規模に対する割合のこと。
連結実質赤字比率	—	18.30	40.00	町のすべての会計を合計した結果生じた赤字の財政規模に対する割合。
実質公債費比率	16.2	25.0	35.0	すべての会計における一般会計が負担する元利償還金の標準財政規模に対する割合。
将来負担比率	96.5	350.0		一般会計が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合。

町長にもの申す 一般質問

8議員が登壇しました



中山 町長



坂上 学校教育課長



東 建設課長



山田 総務課長



赤井 住民課長



河島 環境衛生課長



東 下水道課長

質問番号	質問議員氏名	質問事項	質問番号	質問議員氏名	質問事項
1	佐々木 裕 哲	1. 農業集落排水及び公共下水の加入、接続率の現状及び今後の見通しは 2. 当町の残存戸籍問題は 3. コンニャク湧水対策は	5	竹本 和 泰	1. 観光振興策で町の活力を 2. 観光施設巡回バスの有効利用は
2	増 谷 憲	1. 公共交通のあり方をただす 2. 雇用対策と町内産業の活性化を 3. 有害鳥獣対策の充実を	6	堀 江 美智子	1. 国民健康保険の住民負担の軽減を 2. 子宮頸ガンの予防制度を 3. ヒブ、肺炎球菌ワクチンへの助成を 4. 観光施設巡回バスの充実を
3	橋 爪 弘 典	1. 糸野地区の堤防敷地への課税は不当ではないか	7	森 本 明	1. 住みよい有田川町に 2. 高齢者の安全対策は
4	梶 部 重 計	1. 町内の高齢者所在不明者の徳園は 2. 第三保育所のグラウンド排水対策は 3. 営農給水栓の更新を 4. 鳥獣害対策の充実は 5. 町職員の地元採用は	8	殿 井 真	1. 金屋第三保育所のグラウンド工事は 2. 風力発電に関する問題の現況は

下水道関係を問う



佐々木 裕 哲

下水道などの加入 接続率および水道 料金との関係は

町長 わが町の下水道は12年前の農業集落排水に始まり、現在、公共下水道も計画どおりに工事が進み、一部供用開始している。

将来の維持管理のためには最低80%以上の接続加入が必要である。そのため推進策はどのようなものか。

また、当町の水道料金は他市町より高いが、下水道加入の阻害になっていないか。湯浅町への分水料金は(1㎡1194円)町民の使用料(1㎡117円)より安いのはおかしいのではないか。

町長 農業集落排水の接続率は73.3%、年々向上しつつあるが、地区によりバラツキがある。公共下水道は計画どおり



下水道工事現場

成果が出ている。現在31.4%の接続率である。公共下水道の料金は、水道料金の85%の料金となっている。

湯浅分水の料金は少なくとも水道原価(1205130円)で売却できるように交渉する。

農業集落排水、下水道でも維持管理のためには加入接続を増やす以外ないので努力していく。

下水道課長 現在、吉見地区の未接続宅を訪問して接続を勧めている。他の地区も訪問して勧奨していく。

戸籍上、不明者はいるのか

町長 今、問題となっている戸籍上生存し、所在不明者が当町にいるのか。また、合併時、戸籍を整理した自治体があると聞くが当町はしなかったのか。

町長 残存戸籍者は100人以上は124人で最高142歳。その内生存確認者は16人で最高104歳となっている。

今後、法務局と相談しながら整理していく。



洪水の危険にさらされているコンニャク溝 (西丹生園・下津野)

しなかったが、戸籍の事務を電算化したときに一部整理している。今後、120歳以上の高齢者から整理していきたい。

コンニャク溝の 雨水対策を

町長 以前から問題となっているコンニャク溝の雨水対策をどのように進めるのか。

町長 以前から承知している。抜本的に改修するためには用地の同意が必要であり、補助金のつく事業で対応できないか考える。

県に対して力を入れてもらえるよう要望していく。

建設課長 農林水産省の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業か県の小規模土地改良事業の水路工事が補助に該当すると思う。



利用しやすい公共交通の整備を

増 谷 憲

交通条例の制定を

【質問】 ①町が計画している総合交通計画の内容と今後の取り組みはどうか
②町民へバスなど利用のアンケート調査の実施を
③交通条例の制定を求める。

④路線バス、コミュニティバス利用で最大千円以内の料金設定への補助を求める。

町長 ①和歌山大学の地域貢献機能の充実にを図るプロジェクト事業に応募し採用された。町内のコミュニティバス路線の現地調査に入っている。コミュニティバス、スクールバス、路線バスなどの活用、移動手段の問題点を探り、よりよい公共交通になるよう研究していく。プロジェクト事業は平成23年12月に調査が終わる。
②町民へのアンケート調

査は行う予定である。

③交通条例は、今やっている作業の進み具合をみながらつくっていきたい。
④効率的な交通体系を考える上で今後検討したい。

雇用対策と町内産業の活性化を

【質問】 ①誘致企業10社の雇用状況はどうか。また誘致企業への雇用の働きかけを求める。

②公契約の立場から労働者の賃金を伴う入札は安ければ良いというのでなく賃金の保障をした入札にすべきでないか。
③町が発注する消耗品や備品、食材の地元発注率を高めるよう求める。
④小規模公共工事やリフォームの地元業者への発注制度を求める。
⑤みかんや山椒など農林産物の消費拡大はどうか。学校給食にもっとみかんを出していただきたい。

町長 ①2008年と比べて雇用者は140人減っている。ほとんどは派遣社員である。今後も雇用してもらえよう働きかけていく。

②今後、検討していく。
③できるだけ発注率を上げるよう努力したい。
④入札参加での業者登録制度がある。希望する業種の登録をしていたきたい。この制度を広報で知らせたい。

⑤今後も消費拡大に取り組む。またみかんはできるだけ給食の献立に入れていく。

有害対策の充実を

【質問】 ①町鳥獣被害防止対策協議会での協議状況はどうか。

②有害鳥獣被害対策の制度を分かりやすく広報などで知らせはどうか。
③里山と畑、人家の境目を明確にする草刈はどう

か。

④イノシシなどが出ないか見回る「見回り隊」の制度はどうか。
⑤わなの免許取得への補助制度はどうか。

町長 ①昨年協議会を設置。今年9月に第1回目の協議会を開き、猟友会、農家、農業関係機関等で意見交換している。

②制度を知らない方もあり、できるだけ分かりやすい内容で広報していく。
③地域も広く今のところやるのは難しい。

④広川町や日高川町の取り組みの結果がよければ検討したい。
⑤県の制度で、新規に取得する場合、県2分の1、町4分の1、本人4分の1負担の制度がある。中山間地域直接支払制度の活用もある。

糸野地区の堤防敷地への課税は不当ではないか



橋 爪 弘 典

**堤防建設時に地元
の協力があつた中で**

【問】 昭和28年7月18日の夜半から早朝にかけて、有田地方をゲリラ豪雨が襲った。

有田川の沿岸流域が壊滅的な損害を被り、吉備井堰も増水のため完全に流失した。吉備井堰というのは、その当時は水田であった「花の里公園」東グラウンドから上中島のJRが通る有田川鉄橋までの水田用水を賄うための井堰である。



昭和32年当時の工事現場



昭和32年当時の現場

水害後、昭和31年にこの井堰を復旧しようとする話が持ち上がった。しかしその工法は、水害前は木の杭を打ち込んだだけの井堰であったが、水害後はコンクリートの堰とする計画であった。ただコンクリートで堰をしただけでは、川底から漏水するというところで、川底が未来永劫下がることがないよう、相当な面

積の川底にコンクリートで敷を張るという工法であった。

糸野地区は、低水護岸の越流堤防で、大水が出ればすぐ乗り越える低い堤防であるため、強い反対運動が起こった。しかし、堰をしなければ用水を確保できないので、当時の湯浅土木事務所の課長、金屋町の建設課長が糸野地区の説得に当たり、何回かの糸野区民との折衝の結果、低水護岸の内側にもう一つの堤防をつくるということでは話がつき、現在の堤防が生まれた。

それ以来何年間にわたり、その敷地が個人名義であるにも関わらず、課税されていない。それは、有田川土地改良区の用水を確保するため、和歌山県と金屋町が糸野区を

説得して堤防をつくった経緯のためである。私の申し上げたいことは和歌山県、金屋町が関わり、何年間も課税されないで来たものを、建設当時のいきさつの何の調査もなく課税するということは、あってはならないことであり、即刻非課税とするよう、説明を求めらるものである。

町長 課税はあくまでも公平であるべきと考えている。過去の状況を綿密に調査して対応したい。



現在の堤防



農業用給水施設「営農栓」 の継続を

楠 部 重 計

町内高齢者所在 不明者の確認は

【質問】 全国的に広がっている高齢者の所在不明問題。町内80歳以上、90歳以上、100歳以上の確認はできているのか。

町長 戸籍上、戦災被害や戦後の混乱で死亡届が出ていない人、海外移住などが原因で生存不明者もあるが住民基本台帳で100歳以上は、104歳の最高齢者を含め16名、民生委員の協力も得て確認できている。

第三保育所のグ ランド内の雨水 対策は

【質問】 妙見池の埋め立てによる第三保育所の移転改築工事は高速道路の4車線化に伴う長峰トンネル工事の廃土を埋め立て整備された。ところが、町の当初計画では雨水が

浸透すると考え、水路へ流す排水の方法がとられていなかったため、グラウンドに雨水がたまり、何度も水はけできない状態が起きている。

万全な排水対策をどう考えているのか。

町長 すべての雨水を処理しようと思えば、抜本的に対策をしなければ解決しない。今後、水路の設置など推移を見守りながら検討していく。

営農栓器械の更新を

【質問】 吉原地内「営農栓」3箇所のうち、給食センター横の1台が去る5月より故障のため使用できない状態となっている。

町長 町内17箇所の営農栓は、いずれも農家にとってかみ水や薬剤散布用として欠かせない。このままではいつ基盤自体が故障するとも限らず、メーカーの撤退や製造業者が見つ

からないではすまされたい。早急な対応を検討したい。

町長 以前から故障に対応できる新たな業者を探していたところ、対応できそうな業者が見つかった。できる限り早急かつ計画的に更新していく。

鳥獣害対策等はどうか

【質問】 鳥獣による被害は甚大だ。町が貸し出すオリも10基では足りない。もっと増やされたい。

また捕獲オリ購入補助金を出してはどうか。耕作放棄地の実態調査を早急にできないか。



捕獲されたアライグマ

町長 16基の捕獲オリは2週間の貸し出し期間で利用できる。

現在使えるのは10基であり、今後補充していく。オリ購入補助金は県補助制度2分の1の適用を受けて購入していく。

実態調査は、調査員2名を雇用して農業委員会と協力しながら進めていく。

町職員の採用はどうか

【質問】 合併後の町職員の退職及び採用人数はどのくらいか。また有田地区3高校の卒業生を地元雇用することで地域の活性化、過疎化の歯止めになるのではないか。

町長 平成17年度から退職者は70人に対して22人採用。そのうち有田3高校の卒業生の採用は16人。役場は数少ない雇用の場であり、今後も順次採用したい。

観光振興策で活力を



竹本和泰

観光施設巡回バスの運行状況は

【質問】 現在2台のバスで、藤並駅から明恵峡温泉行き5便と、しみず温泉行き3便の2路線が無料で運行されている。3年間に限って運行経費はすべて国の負担だが、要している運行費用は。また、3年後の運行の考えは。

町長 3年後の運行は、今後の利用状況により、観光振興に効果があれば継続していきたい。

運行経費は、平成21年5月から平成24年3月までの期間、4499万円で有田鉄道株式会社と一括契約している。

町の無料バス運行で交通会社への影響は

【質問】 無料バス運行により、町民の貴重な交通手段である交通会社の経営



観光施設巡回バス

への影響の認識は。

町内の交通機関を利用して、明恵峡温泉や二川しみず温泉利用者に、入浴無料券を発行してはどうか。

町長 全く影響がないとはいえないが、目的は観光施設を巡る無料バスである。

町内3温泉への無料券発行は、町内交通機関の位置付け、無料交付の方法等協議が必要で、今後の検討課題としたい。

観光施設巡回バスを町内観光名所に巡りに活用しては

【質問】 町内にはコスモスパーク、生石高原、あら

ぎ島など自然豊かな景勝地や、文化財をはじめ、すばらしい文化的行事も数多くある。この豊富な観光資源を県内外の人に積極的に情報発信し、観光ルートを設定して、観光客の利用に有料で観光施設巡回バスを活用できないか。

町長 地域の観光資源を紹介し観光客の増加を図るため、各施設、観光関係者で検討していただく。有田川町ふるさと開発公社では、独自にコース設定をしてお客さまに好評とのことである。

有料運転については、他の交通機関との兼ね合



県立生石高原のススキ原

いもあり慎重に対処していきたい。

農林産物の収穫など自然体験の設定、拡充を

【質問】 ブドウ狩りなど観光農園のほか、みかん狩り、トマト狩りや、稲刈り、山菜採りなど農林産物の収穫体験、農林産物や自然体験のできる場所も多い。町内への入込客の増加を図り、都市住民との交流を推進することにより、地域の活性化が期待できると思うが。

町長 ふるさと開発公社や県農の協力を得て実施しているあらぎ島の田植え、稲刈り体験も好評である。

体験場所はたくさんあり、観光農園や地域での自然体験を町として支援していきたい。



町民の健康と生命を守る

堀江 眞智子

国保税の引き下げを

質問 国保制度の利用者の平均年収は168万円（平成21年度）、負担は非常に大きく、国保税の高さは平成20年度県内5位。

国保税は県平均と比べても一人当たり約1万円高い。一世帯1万円の引き下げの要求は妥当であり、国保税引き下げは町民に対する大きな課題だ。町長は、国保基金の取り崩しに「見通しがつけば検討」と答弁した。基金ゼロの自治体でも国保制度を維持していたり、



基金を取り崩しても問題はない。

多くの町民から「国保税が高すぎる」という声を聞く。国保税滞納者が徐々に増加傾向にある。苦しんでいる町民の救済が求められる。

町長 平成22年度の状況を見極めながら検討する。

国保一部負担の減免は

質問 病院での患者負担は大きい。

6月議会で、基準づくりを検討したいと町長は答弁した。

国は患者負担の減額・免除制度を実施する自治体に対し、国が負担する方針だ。町は、制度化にどう取り組むのか。

町長 先進他市町の実施基準を参考に、基準策定に向け取り組んでいる。

子宮頸がん予防制度を

質問 町母子福祉会の講

演会のあいさつで、町長は「来年から予防ワクチンを実施」と明言。議会の場で再度確認したい。

また、ワクチンの接種だけでなく、定期がん検診の受診率向上の具体的な取り組みは。

町長 予防ワクチンは、来年度から全額公費負担を実施する。受診率向上は、20歳・30歳の誕生日の翌月に啓発のパンフを送付している。

ヒブ・肺炎ワクチン助成を

質問 乳幼児の細菌性髄膜炎の起炎菌は、ヒブ菌が最も多い。WHOは1998年全ての国に対し、ワクチン接種を勧告。しかし、接種4回で自己負担は約3万円、肺炎球菌ワクチンは4回で約4万円かかる。社会の宝である子どもの生命を守るために、ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチンの町の公

費負担を求める。

町長 ヒブ・肺炎球菌ワクチンの同時接種は、有効であると認識している。県下の状況を見ながら検討する。



観光施設巡回バスの停車は

質問 町民の要望に応え、きび会館・金屋庁舎などへも観光巡回バスへの乗降ができるように求める。

町長 一年経過したあとに、再度停車について業者と協議したい。

長期総合計画の進捗を問う



森 本 明

人口減少の 歯止め対策は

町長 有田川町長期総合計画「きらめき ひろがる 有田川」では、住み続けたいと思う人76・1%、将来は80%を目指し、人口は3万人を目標としている。少子化の中で、この数字に近づけるには、若者への支援策として公営住宅建設などの諸施策により、県内外からの転入を促進しなければならぬ。幸い阪和自動車道の複線化、藤並駅の特急停車、また平成23年から鏡石トンネルも事業化される予定となり、ずいぶんと利便性が図られ通勤圏も拡大されてきた。いまがチャンスだ。

町長 町長もオリジナルな施策で町の未来のため目標達成に尽力いただきたい。

町長 将来人口を見据え、交通網の整備、下水道の

普及などの施策に力を注いできた。また、子育て支援として、9月から小学生までの医療費無料化も実施し、延長・休日保育・学童クラブの充実にも力を入れ、今後も若者が定住したい町を目指し、少子化を止めたい。

金屋地域の整備は

町長 合併した旧3町の財政支出がバランスを失っている。金屋地域には大型プロジェクト事業がなかったことが大きな要因であるが、区長会から出された多くの要望は、町民の願いであり、早急にお願したい。

町長 金屋新庁舎の建設、小川地区の村づくり事業、排水対策等を進める。

金屋区長会からの要望は年次計画を組んで完成させていきたい。

高齢者の安全対策は

町長 町内には65歳以上の一人暮らしの方が、921世帯ある。安全、安心を保つために、地上デジタル網により、不測の事態に対応できるように、検討されたい。

町長 他都市で実施されていることは承知している。対象家庭にインターネットの接続が必要となるので、そのことも含め他の方法も研究したい。

地上デジタル対策は

町長 金屋地域34局管内の地上デジタル難視聴地域のうち、光ファイバー方式が共同アンテナ方式か決まっていなくて、地元とよく話し合いをし、便利で維持費が少ない方法を考えられたい。また、西ヶ峯、有原地域のギャップファイバー（無線方式）は、高齢

者世帯の多い中で、高額負担となっている。設置費用、維持費などを行政で検討できないか。

町長 金屋34局管内には、光ファイバー回線が導入されていない。しかし、この地域は高齢化が進み、維持管理が大変であると思うので、他の地域の方々と同じような条件で、地デジ放送を楽しめるように検討する。

総務課長 地上デジタル放送の受信方法の決まっていない生石、宇井吾地区については、維持費などの負担が最少になるよう、地元と協議して決めたい。



有田川町長期総合計画



役場組織を充分活用して より良い公共建築物に

殿 井 堯

金屋第三保育所の 排水工事は

質問 金屋第三保育所は今春3億円の予算で池を埋立て建築されたが、グラウンドの水はけが非常に悪い。3〜4日経っても水が引かない状態が続いている。なぜこのような事態が起こったのか。

先にグラウンド補修工事をした八幡中学校のグラウンドは、非常に水はけがよく工夫されている。このように良い例があるにもかかわらず、なぜ今回このような事態になったのか。設計・工事の不備はなかったのか。

また、今後の町の対策について聞きたい。

町長 金屋第三保育所の埋立て工事は建設課、その他の工事は福祉課が担当し工事が行われた。当初の計画では、トンネルの岩砕を埋め立てる



数日経っても水が引かないグラウンド

ことにより非常に通水が良く、充分通水できると考えていたが、結果的に水はけが悪く、水がたまるといふ状態になっている。現状は碎石を敷き真砂土を上乘せして様子を見ている。

園児の遊び場であるグラウンドなので、早急に町としても対応していきたい。これからは各課が連携を取り、万全な体制で協力し合っていく必要がある。

建設課長 金屋第三保育所の埋立工事は、高速道路トンネルの岩砕で埋め立てられている。擁壁より30cm下に水抜き管を設

置し池の底に有孔管（穴あきパイプ）を設置、その管の周りを岩砕で巻き、ため池の下流に排水を流す仕組みになっている。

学校教育課長 八幡中学校のグラウンド工法についてはグラウンドの元々の土と改良剤を混ぜ合わせるリサイクル工法を行った。雨水はグラウンドに勾配をつけ周囲に表面排水をしている。

風力発電施設の騒音・ 低周波問題の現況は

質問 風力発電施設にかかる騒音・低周波の問題について、町として地元住民の方々へどのような対応をされているのか。

また、地元住民と充分な連携をとれているのか。

町長 風力発電施設の建設前から地元住民の皆さまと協議し北山開発のため理解をいただいていた。町としても地元の方々に

アンケート調査などを行い、できるだけ負担の少ないよう努めていきたい。騒音に関しては夜間に風力施設を止めることができないか業者に話をしている。また低周波の問題については、困もようやく本腰をいれて取り組んでくれることになった。町としてもできるだけの相談をしていく。

環境衛生課長 平成22年度より環境省による騒音・低周波の全国調査が着手された。有田川町も県を通じて地域の苦情を報告している。実態調査により国の方針が固まる。県や各課とも連携し対応していきたい。



長峰に立つ風力発電施設

総務文教常任委員会

委員会レポート

防災について考える

委員長 竹本和泰

去る8月17日と18日、愛知県豊橋市と新城市へ視察研修を行いました。

救急へ迅速な指令

初日は豊橋市、豊川市、蒲郡市と新城市の4市で共同運用する消防指令通信センターを訪れた。

4市の規模は、面積1530平方km、人口70万人と大規模で、各市の消防本部から出向した職員で119番処理を行っています。

高機能の消防通信指令システムは現場到着時間の短縮、災害時要救助者への対応、大災害への対応力強化、情報の集約化・効率化、という4つの

構想をもとに運営されています。

消防通信指令システムは、協議会加盟4市の救急車輛出動状況等全車輛をキャッチしており、救急事態が発生すると、発生現場に一番近い車輛を瞬時に選別して出動要請されています。共同運用することにより、救急事



共同運用する消防指令通信センター（豊橋市）

態などの情報がキヤッチしやすく、一つの消防組織力でなく応援体制がとりやすいこと、また共同運用前は

4市で担当職員は51名であったが、現在は27名で業務を行っているとのことであります。

運営経費、人件費は出向している各市が負担し、消防通信指令システム料などは各市が人口按分による負担としているとうかがいました。

災害に強いまちづくりへ

2日目、新城市の消防防災センターを訪れた。新城市の面積は499平方km、人口5万1千人、地形的には有田川町とよく似ています。

当センターは、敷地面積11,380㎡に2階建ての本館棟・車庫棟と6階建ての訓練棟があり、



消防防災センター（新城市）

本館棟屋上には24時間差着陸可能なヘリポートが設置されています。消防防災センターは、住民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し、

単に消防機能だけでなく災害時には応急対策の拠点として、また平常時のPR、体験しながら学ぶ防災学習ホールなど防災コミュニティの活動の場として、地域に密着した地域防災の拠点と位置付

けられています。

この度、視察研修した消防指令室の共同運用及び防災拠点施設は、最新のIT器機の導入などから非常事態の発生に迅速に対応できる体制となっております。

最近は特に、全国各地でゲリラ的豪雨が発生し、甚大な被害が出ています。

また近い将来東南海、南海地震が発生するであろうと予測されています。このような状況から、わが有田川町の現状を危惧するところであり、不測の事態に備えた救急、消防防災の整備を広域的な観点から捉え、安全な町づくりへ早急に取り組む必要があると考えます。

住民福祉常任委員会 福祉施設として どう有効活用するかが問われている

委員長 楠部重計

住民福祉常任委員会は9月28日、29日の2日間にわたり鳥取県智頭町と京都府宇治市へ行政視察を行いました。

社会福祉協議会が特別養老人ホームを運営

智頭町は鳥取県の東南に位置し、人口8177人、高齢化率34.8%、面積224.6平方kmです。

智頭町立特別養護老人ホーム「智頭心和苑」は町立病院と併設されており、町内の保健・医療・福祉センターとして大きな役割を担っています。「智頭心和苑」は指定管理により社会福祉協議会

が運営をしています。

介護老人福祉施設サービスマン所定員76名、短期入所生活介護サービスマン7名となっています。特徴はユニット型といって個室化していることです。社会福祉協議会に指定

管理にもとづく業務を委託する上で考えたことは、①町民負担を増やさないこと。②サービスマンの水準を低下させないこと。③社会福祉協議会の経営を改善させることでした。なお、指定管理期間は3年です。

この中で施設建設の起債償還（借金返済）が毎年7500万円前後（事業収入の20%以上）にな

ること。また介護報酬の支給がサービス提供後2カ月後になるため2、3カ月間の運転資金が必要なため、



特養ホーム「智頭心和苑」

町から10年間無利子で9000万円借り、毎年1000万円返済計画になっています。財政負担を少なくするために人件費の圧縮（臨時職の増加等）、物件費の圧縮を進めています。

有田川町も今後指定管理制度による協議を重ねていく必要性を感じています。

学校の空き教室を福祉施設に有効利用

京都市宇治市は、人口19万1051人、高齢化率15.7%、面積67.6平方kmです。

全国に先駆けて小学校の空き教室を転用してデイサービスセンター「社会福祉法人「宇治明星園」として運営しています。

宇治市の小倉小学校は児童数の減少（1400人から652人に）でまるまる1棟（3階建て）空いていました。その施設を1階、2階はデイサービス・地域包括支援事業として事業を行って

「学校の目的外使用」の承認をえて事業ができたことが大きかったといえます。事業費は約10億円です。

施設を利用する高齢者は自分で行けることが原則で、お昼休みには小学生との交流が盛んで、将棋を教えてもらったり、高齢者の似顔絵を描いたり、子どもの成長にすぐくプラスになっているといえます。デメリットはあるかと聞くと、きつばりないといえます。

このように有田川町でも廃校施設が多い中で、施設の有効利用を検討することが求められます。



宇治明星園で説明をうける

議会広報編集特別委員会 委員会レポート 住民に親しまれる広報誌作成へ

委員 岡 省 吾

平成22年8月25日から26日の2日間にわたり、東京のシェーンパツハ・サポーターで開催された第72回町議会広報研修会に参加しました。

まず初日の日程として、「わかりやすい文章表現・表記」「読まれる広報誌のつくり方」情報社会のコミュニケーション「ネットPR発想で考える自治体ホームページの活用方法」と題し、3名の講師からの講演を拝聴しました。

2日目には、広報コンサルタントの深沢徹氏より、当委員会が発行している有田川町議会広報「かわら版」の記事の内

容をクリニック（診断）していただきました。

住民が登場する企画を

私自身、個人の感想として毎議会ごとに発行される「かわら版」のでき映えに対して、満足のいく発行誌だと常々思っていたので、自信をもってクリニックに挑んだわけでありますが、先生から指摘される改善点の多さと、他市町村の広報誌のできの良さに学ぶことの多い研修内容となりました。

議会広報誌に求められるのは、住民に対する情報公開の徹底と、それを誰が見ても分かりやすく

親しみやすい内容になっていくかが基本であります。たとえば、議案の採決について賛否数も必ず記載することや、討論の内容も議員名を入れることが望まれること。また、予算額についても歳入歳出を円グラフに示し、役所言葉を使わずなるべく平易な文章や用語を活用すること。特に住民が登場する企画を常に設けることなどを指導されました。

「かわら版」の優れている点としては、一般質問1議員1ページを確保して、全項目を要約掲載していること。大見出しや中見出しも具体的で良く、質問答弁の文章も的確であること。「町長にもの申す」のタイトルについてもインパクトがあり、答弁者である町長や課長の顔写真を載せていることも他町の広報誌にはなく良い評価をいただきました。また、限られた予算の中で広報誌を作成するわけでありますから、どうしても毎号のページ数が気に掛かるところであります。しかし、議会ごとに一般質問の人数や議案数の多寡など内容の濃さが違ってくるので、弾力ある広報の予算を



研修の様子

他町にはない良い評価を

確保し、ページ数を気にすることなく、多くの情報を住民に伝えることを指導いただきました。

議会広報「かわら版」の発行を担当する委員の一人として、広報誌を充実したものにすため、住民の声を反映できるように紙面づくりに今後も取り組みねばと痛感しました。



議会広報研修会での講演

今回の研修で学んだことを、今後の「かわら版」発行に役立て、住民に親しまれるよりよい広報誌作成に努めたいと思いを新たにす研修となりました。

『親近感がわいた議会傍聴』

議会傍聴記



ぼくたちの生活に関係のある地方自治

身近な議会

石原中学校3年
森田実沙さん

私は今日、議会を見学に行きました。

正直、私は社会の勉強が苦手だし議会といわれても遠い世界の話で、自分には関係がないような気がしていました。

しかし実際は、とても身近なものでした。

場所が吉備の役場で行ったことがあったし、一般質問の内容も難しかったけれど身近だったからです。観光巡回バスなど、自分が知っていることも話題に出ていたし、自分の身の回りのことはこうして決められているんだなと思いました。

私は、一般の人が議会見学をしていることにも驚きました。地方自治は民主主義の学校といわれるように、住民自身が政治に参加している様

子がよくわかりました。

私は今回で、議会は自分に関係があることだし、住民のひとりとして、勉強するべきだと思えました。

議会を傍聴して

石原中学校3年
吉川聡隆さん

今回、有田川町議会を傍聴させてもらってたくさんを知ることができました。

まず、旧吉備町の役場に議会場があることを知らなかったのが町民として知ることができて良かったです。

傍聴席には僕たち以外にも有田川町民がたくさんいました。

議会が始まる時間近くと議員の人たちが次々と議会場に入ってきました。中には見たことのある人が何人かいました。

議会が始まると、議員の人が僕たちの傍聴を歓迎してくれました。

答弁のほとんどを町長さんがしていました。

有田川町議会を傍聴させてもらって、公民の授業とは違って実際に見学することにより政治を身近に感じる事ができてとても良い経験になりました。

行政と議会

石原中学校3年
北 大樹さん

僕が議会を見学して思ったことは、議員さんの質問が現在の社会問題に関する町の姿勢を問うたということです。

普段は遠い存在のニュースもこの町で起こっているのかということが分かりました。

議場の中を見回すと、いろいろな課がありました。

教育委員会でも学校教育と社会教育の課がありました。地方公共団体が、住民のためにやっている仕事の多さに気づかされました。

また議員定数を減らしてきた空席は、人件費を削減し、行政の効率化に努力していることが分かりました。議場は傍聴席との高さと同じで、とても親近感がわきました。

僕は長い間、首長さんと議員のみで議会は構成されているものと思っていたので、課長さんなどの参加は驚きました。大変よい勉強になりました。






第3回有田川町観光写真コンテスト 和歌山県観光連盟会長賞 『黄金色の高原』 提供：有田川町観光協会 撮影者：小敷清史氏 (生石高原)

議会広報編集 特別委員会

◎ 殿 井 真
○ 湊 正 剛
増 谷 兼 憲
岡 谷 吾 吾
新 家 省 弘
竹 本 和 泰

◎は委員長
○は副委員長

傍聴に お越し ください



第4回定例議会は12月7日開会の予定で、一般質問は、12月15日・16日に予定されています。議会では、みなさんの生活に直結する問題を協議しています。ぜひ傍聴にお越し下さい。傍聴にお越しください。いなみみには、市庁舎、金屋庁舎、清水行政局の各一階のロビーにおいて議会中継を開始していますので、ご覧下さい。

編集 後記

議場にあふれんばかりの傍聴者が……この9月議会で43名の方々が傍聴に見えられました。特に石垣中学校3年生と先生で21名、金屋地区区長会常任委員7名、その他一般の方々13名、他町の町会議員2名です。傍聴に来ていただいた方々からは、議会が身近に感じられ、身近な質問に関心を持ってくれます。しかし、傍聴席が足りずせっかくお越しいただいたのに議場内での傍聴ができないみなさんもおられ残念でした。こういうことも想定して先の6月議会から各庁舎に設置されたテレビ画面からもリアルタイムで見られるようになっていたのが幸いです。多くのみなさんが傍聴にお越し下さることが、各議員や町当局へのチェックになると確信しています。(増谷 憲)

お問い合わせ

吉備庁舎4階
議会事務局まで
☎52121111